

平成24年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年6月2日

上場取引所 大

上場会社名 ピーブル株式会社

コード番号 7865 URL <http://people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 千鶴子

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 平成23年6月3日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成24年1月期第1四半期の業績(平成23年1月21日～平成23年4月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年1月期第1四半期	620	△10.5	54	△24.2	54	△36.2	30	△47.7
23年1月期第1四半期	692	13.1	71	77.2	84	94.9	58	132.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年1月期第1四半期	6.99	6.98
23年1月期第1四半期	13.36	13.35

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年1月期第1四半期	2,104	1,738	82.6	398.88
23年1月期	2,351	1,926	81.9	442.02

(参考) 自己資本 24年1月期第1四半期 1,738百万円 23年1月期 1,926百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年1月期	—	0.00	—	50.00	50.00
24年1月期	—	—	—	—	—
24年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

平成24年1月期の配当予想につきまして、第2四半期末配当実施の有無につきましては7月中旬に、期末配当予想につきましては通期業績予想と連動しますため、第3四半期が終了し、年末商戦を見極めた後に発表させていただきます。

3. 平成24年1月期の業績予想(平成23年1月21日～平成24年1月20日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,165	△8.5	61	△34.2	61	△39.4	34	△48.6	7.90
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

当社の通期の業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。このような玩具市場の特性に鑑み、本来通期の業績予想を掲げるべきところ、直近で見通せる範囲である次四半期の予想のみを掲げさせていただきます。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 24年1月期1Q 4,437,500株 23年1月期 4,437,500株

② 期末自己株式数 24年1月期1Q 80,193株 23年1月期 80,193株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 24年1月期1Q 4,357,307株 23年1月期1Q 4,357,684株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点に金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

5. 平成24年1月期第2四半期会計期間(平成23年4月21日～平成23年7月20日)および
平成24年1月期第2四半期累計期間(平成23年1月21日～平成23年7月20日)の業績予想

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		第2四半期 純利益	1株当たり四 半期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円 %	円 銭
24年1月期第2四半期	545	(△6.1)	7	(△66.8)	7	(△55.6)	4 (△54.4)	0 92
23年1月期第2四半期	581	(△0.7)	22	(16.2)	16	(-)	9 (-)	2 01
24年1月期第2四半期累計	1,165	(△8.5)	61	(△34.2)	61	(△39.4)	34(△48.6)	7 90
23年1月期第2四半期累計	1,273	(6.3)	93	(56.8)	100	(135.7)	67 (174.7)	15 37

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
【第1四半期期間】	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
【第1四半期累計期間】	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
4. 補足情報	8
(1) カテゴリー別販売の状況	8
【第1四半期累計期間売上高】	8
【新発売商品】	8

【添付資料】

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

第1四半期会計期間

(平成23年1月21日～平成23年4月20日)

	金額	対前年同期比
売上高	620百万円	10.5% 減
営業利益	54百万円	24.2% 減
経常利益	54百万円	36.2% 減
第1四半期純利益	30百万円	47.7% 減

当35期の第1四半期は、東日本大震災による想定外の問題に見舞われ、一時的な受注停止、TVCM中断等を余儀なくされましたが、4月度に入り玩具を中心に受注が跳ね返したことで、売上高は6億20百万円、前年同期実績対比10.5%減と、震災前の期初段階で睨んだ想定範囲に回復を示しました。

玩具市場全般では、前年度年末商戦から続く低迷から抜けきらぬ矢先の大震災となり、一時は新製品の発売延期、広告やイベントの自粛などが追い討ちをかけ、沈滞に拍車がかかりました。ようやくゴールデンウィーク睨みで回復の兆しが見え始めた4月度後半に、遅れた新製品販売キャンペーンが再開し、徐々に玩具店への来客数も増える傾向を見せ始めました。

当社では当四半期の3月度に受注凍結期間の影響を受けたものの、新製品の発売は計画通りに実行し、広告に関しても比較的早期に再開に踏み切り、需要喚起に努力しました。

女兒玩具カテゴリーでは震災の影響で公共広告に振り変わったTVCM中断を、早期(3月22日)に凍結解除しました。当四半期の売上高は、お道具のリニューアルを含む4月度発売新製品を控え、売り減らし期間となったことから前年実績を下回ってはおりますが、新製品春限定ぼぼちゃんの「春だ！春だ！たんぼぼのぼぼちゃんだ！」の明るいコマーシャルが震災後の暗いムードに光を当て、お母さん達を玩具屋さん連れ出したようで、同カテゴリーは当四半期4月中旬頃には回復傾向を強めてきました。

乳児・知育玩具では、当四半期期初段階では、前34期年度末商戦の一部店舗の過剰在庫の消化期間や、リニューアル発売へ繋ぐための市場在庫の消化期間を見込んでおりましたが、震災の影響で、多店舗展開する量販店等において、乳幼児玩具リノベーション新製品を当四半期内にスムーズに導入出来ない状況となりました。雑誌広告が先行されながら、店頭には広告アイテムが並ばない事態は、当四半期の同カテゴリー全体の回転鈍化を招いています。

また、震災とは別に、知育玩具の定番品には、前期34期年末において多品種過剰化が目立った競合品(キャラクター化商品)が、4月度に入ってもなお売り場占有率が高く、当四半期の当社知育商品売上に影響しています。

自転車市場全般では、震災の影響で好転し販売台数を伸ばしている大人自転車とは異なり、需要が集中する3月の幼児自転車への震災の影響は痛手となりました。原発問題は外出や外遊びを控えさせる等の自衛行動を促し、来客数減と直接販売台数に影響が見られました。また、当期に入り、お店によっては消費低迷を睨んだ安価PB商品の露出も激しくなり、当社の定番品「いきなり自転車」(税込23,940円)等も期初段階で見ていた販売台数の下方修正を余儀なくされました。

しかし、このような厳しい状況下であっても、当社は4月に計画していた3歳をターゲットにした幼児自転車の新製品「3から9自転車」(税込23,940円)の発売を粛々と進め、4月11日からTV宣伝開始に踏み切りました。「3歳～9歳まで1台で間に合う、買い替え要らず！」をキャッチフレーズにした当該新製品は、流通の一部では、小学校1年生(7歳)で必ず買い替え、合計2台売っていた自転車の販売数が減る事への抵抗を生み、新製品挑戦店舗は少ない規模で開始しました。流通の思いと裏腹に、消費者には「買い替え要らず！」が受け、コマーシャルで指名買いが始まりました。

以上のように、当35期第1四半期では想定外の震災や消費鈍化に苦戦しながらも、世の中の自粛ムードに同化せず、新たな消費の小さな芽を模索しながらのスタートとなりました。

売上原価では、年初より仕入先からの人件費、材料費の値上要請を受け入れており、一部当四半期の仕入原価にじわりと影響しています。但し、依然円高ドル安基調が継続しているため、利益構造ガイドラインを揺るがすような段階ではありません。よって、売上高の前年同期比10.5%減少を受け、営業利益は54百万円、前年同期比24.2%減となりました。

当第1四半期の経常利益54百万円は、前年同四半期期間に有価証券売却益を営業外収益で計上した差異が影響し、前年同期実績対比で36.2%減となり、当四半期純利益は30百万円の前年同四半期対比47.7%減となりました。

なお、当四半期の特別損失には、当期から適用開始した会計基準により、資産除去債務費用2百万円が計上されております。詳細につきましては4ページ“(2)会計処理の原則・手続き、表示方法の変更の概要”をご参照下さい。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における資産合計は、21億4百万円となりました。前事業年度末から2億47百万円の減少となりましたが、主に配当金支払による現金及び預金の減少によるものです。

負債合計では前事業年度末との比較で、未払法人税等の減少により59百万円減少の3億66百万円となりました。

純資産は四半期純利益の計上および利益剰余金の配当により、前事業年度末より1億88百万円減少の17億38百万円、自己資本比率は82.6%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物は、期首より4億3百万円減少し（前第1四半期累計期間比較では63百万円の減少）13億37百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の増加やたな卸資産の増加、および法人税等の支払により2億8百万円の支出（前年同期間比較では96百万円の減少）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、金型等固定資産の取得による支出により14百万円の支出（前年同期間比較では1百万円の増加）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金支払により1億80百万円の支出（前年同期間比較では19百万円の減少）となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

震災等による直接的影響を受けた当第1四半期売上高、前年同期間比1割減の状況より消費は回復に向かうとは見えても、ゴールデンウィークでの沈滞ムードからも、市場滞留在庫の消化等には暫く時間がかかると見えます。消費マインドは原発問題の憂鬱や節電等もからめ、次期第2四半期では更に不透明さを増し、そこに突破口を開く可能性は、唯一新製品の行方が左右すると予想します。

前期34期の第2四半期は偏って集中発売した新製品がありましたが、当期第2四半期の発売は比較的例年並みとなり、当期新製品発売は、下期に集中しています。その為、次期第2四半期の売上高は、当面第1四半期の1割減から、回復しても1~2ポイントの範囲となる見通しではありますが、依然流動的です。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

① たな卸資産の評価方法

当社では実地棚卸を第2四半期末、期末で行っており、第1四半期会計期間末の棚卸高算出に関しては実地棚卸を省略し、前事業年度の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。また、販売不振が予想される不動態在庫等の評価の洗い直しを目的とするたな卸資産の簿価切り下げにつきましては、収益性の低下が明らかなもののみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法をとっています。なお、当期第1四半期ではその対象となるたな卸資産はありません。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっており、従来の四半期における算出方法から大きな変更はありません。

③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関し、四半期においては加算減算項目や税額控除項目の内、重要なものに限定し算出しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に、経営環境等の著しい変化、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前事業年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニング（将来の法人税等の発生について予測し計画すること）を利用する方法によっております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理基準に関する事項の変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ32千円減少し、税引前四半期純利益は1,874千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による投資その他の資産の「その他」の変動額は1,874千円となります。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成23年4月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,337,599	1,740,260
受取手形及び売掛金	370,210	278,054
商品	234,370	158,172
原材料	886	1,846
その他	11,082	25,531
貸倒引当金	△703	△527
流動資産合計	1,953,444	2,203,336
固定資産		
有形固定資産	59,577	55,195
無形固定資産	3,408	3,687
投資その他の資産		
投資有価証券	28	112
その他	88,023	88,957
投資その他の資産合計	88,051	89,069
固定資産合計	151,036	147,952
資産合計	2,104,481	2,351,288
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	136,970	143,494
未払法人税等	8,999	136,530
その他	170,485	95,267
流動負債合計	316,454	375,290
固定負債		
長期未払金	50,000	50,000
固定負債合計	50,000	50,000
負債合計	366,454	425,290
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,712	162,712
利益剰余金	1,380,055	1,567,480
自己株式	△42,854	△42,854
株主資本合計	1,738,713	1,926,138
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△686	△140
評価・換算差額等合計	△686	△140
純資産合計	1,738,027	1,925,997
負債純資産合計	2,104,481	2,351,288

(2) 四半期損益計算書
【第1四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)
売上高	692,066	619,557
売上原価	330,599	298,251
売上総利益	361,467	321,306
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	109,156	82,536
販売促進費	10,316	11,560
運賃	38,161	38,498
役員報酬	18,461	15,061
給料及び手当	45,336	51,257
支払手数料	14,370	15,605
研究開発費	16,643	16,055
その他	37,776	36,698
販売費及び一般管理費合計	290,218	267,269
営業利益	71,249	54,037
営業外収益		
投資有価証券売却益	14,602	—
その他	904	593
営業外収益合計	15,506	593
営業外費用		
為替差損	1,534	1,075
為替予約評価損	1,342	—
その他	—	9
営業外費用合計	2,877	1,084
経常利益	83,878	53,546
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,842
特別損失合計	—	1,842
税引前四半期純利益	83,878	51,704
法人税、住民税及び事業税	15,940	8,269
法人税等調整額	9,739	12,994
法人税等合計	25,679	21,263
四半期純利益	58,199	30,441

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	83,878	51,704
減価償却費	6,928	7,834
投資有価証券売却損益(△は益)	△14,602	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,842
売上債権の増減額(△は増加)	△93,421	△92,156
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,560	△75,238
仕入債務の増減額(△は減少)	36,880	△6,524
その他	10,645	37,834
小計	18,748	△74,704
利息及び配当金の受取額	3	2
法人税等の支払額	△130,947	△133,722
営業活動によるキャッシュ・フロー	△112,195	△208,424
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,424	△14,982
投資有価証券の取得による支出	△79,822	—
投資有価証券の売却による収入	70,535	—
投資事業組合からの分配による収入	—	544
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,710	△14,437
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△160,583	△179,799
その他	83	△144
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,499	△179,943
現金及び現金同等物に係る換算差額	△462	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△288,868	△402,805
現金及び現金同等物の期首残高	1,689,414	1,740,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,400,547	1,337,337

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) カテゴリー別販売の状況

当第1四半期会計期間の販売の状況について、当社は単一セグメントとしているため、カテゴリー別に示すと以下の通りです。

① 第1四半期会計期間売上高

(単位 千円)

カテゴリー名	前第1四半期会計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年4月20日)	当第1四半期会計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)	前年同期比 (%)
乳児・知育玩具	268,621	225,955	84.1
女兒玩具	164,231	142,105	86.5
遊具・乗り物	187,367	187,351	100.0
その他	71,847	64,147	89.3
合計	692,066	619,557	89.5

② 新発売商品

カテゴリー名	当第1四半期 新発売商品		カテゴリー名	当第1四半期 新発売商品		
	商品名	標準小売価格 (税込)		商品名	標準小売価格 (税込)	
乳児・知育玩具	「ピタゴラスつみき」基本セット	¥4,410	女兒玩具	お人形「タンポポのぼぼちゃん」	¥4,599	
	「ピタゴラスつみき」DXセット	¥9,975		着せかえ「タンポポのチュニックセット」	¥1,470	
	指先の知育シリーズ 「フルコース」	¥3,129		「NEWおんぶとだっこ」	¥1,029	
	指先の知育シリーズ 「小さいもの大集合」	¥1,260		「おむつ替えごっこ」	¥819	
	指先の知育シリーズ 「出し入れ10通り」	¥1,260		「おしゃべりスプーンとぼぼちゃん弁当」	¥2,079	
	指先の知育シリーズ 「型はめの第一歩」	¥1,344		「おはしとフォークでハイ、あ〜ん」	¥819	
	指先の知育シリーズ 「今すぐ熱中 コップがさね」	¥945		「おしゃべりミルク」	¥714	
	うちのお風呂は遊園地	¥3,129		「お洗たくごっこ ドラム式洗濯機」	¥3,654	
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ 「NEWなめられ太郎」	¥525		遊具・乗り物	「いきなり自転車W(ダブル)」	¥26,040
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ 「赤ちゃん専用新聞号外」	¥472			「いきなり自転車折りたたみオレンジ(リニューアル)」	¥21,840
ノンキャラ良品ベビーシリーズ 「赤ちゃんエコバッグ」	¥1,344	「3から9自転車」 シルバーピンク、シルバーグリーン	各¥23,940			
			「公園レーサー」限定新色(3種)	各¥3,000		